

青丘文庫 月報

No. 120
1997年7月5日発行

発行人 〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1 メゾン・ド・青丘内 青丘文庫
韓 哲 曦 TEL 078-735-0220 FAX 078-735-0220
編集人 〒657 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
飛田 雄一 TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878

巻頭エッセー

台湾訪問記



宋 連 玉

台湾は朝鮮に比べると日帝統治が長かったために、朝鮮ほど反日的空気は濃くないと聞かされていた。それを聞いたときは私なりに複雑な思いがした。

なのに「台湾シンポジウム」の会場であり、宿舎である劍潭海外青年活動センターで「日本人と犬は乗車お断り」と車体に書かれているタクシーを見たときは内心驚きもし「そろそろやろ」と得心もした。黄色い車体に赤色の染料で書かれていたため、ただでさえ強烈な文言が火を吹いているように見えた。

タクシーには運転手さんの姿が見られなかったので日本人乗車拒否を掲げるわけは聞けなかった。尖閣諸島問題に刺激されてのことかも知れない。しかし日帝統治期の研究においてもまだまだ台湾の人の本心を汲みあげる民衆史は書かれていないのではないかと、このタクシーを見て思った。

第 161 回朝鮮民族運動史研究会 (97年6月15日)

薛鎮永と柳健永

創氏改名に抗議・自決した二人のソンビ



金 英 達

日帝末期の 1940 年、朝鮮総督府による第 3 次朝鮮民事令改正などによる朝鮮における家族制度・戸籍制度の改変（創氏改名、異姓養子・婿養子）を民族精神抹殺の危機ととらえて、死をもって抗議の意思を表明した二人の老儒生がいた。薛鎮永と柳健永である。

この二人について、昨年の夏と今年の春、韓国のそれぞれの郷里に遺族を訪ねて、聞き取りと文献調査を行なうとともに、生家や墓地などを見学してきたので、その報告をした。

薛鎮永（戸籍名・薛鎮昌）は、1869 年全羅北道淳昌郡金果面銅田里の生れ、奇宇萬門下の衛正斥邪派の儒生で、本貫は淳昌、号は南坡と称した。初期反日義兵闘争（1895～96 年）時に全羅道で起兵した奇宇萬部隊に参加して活動。その後、故郷に引きこもり、地方儒林として書堂「南坡書室」を運営し、後進を指導し抗日思想を鼓吹した。1922 年の朝鮮戸籍令実施時には、「鎮昌」の名が日帝の戸籍に載せられて汚されたとして「鎮永」に改名するという反日の気概をみせた。1939 年公布の創氏制度は“革姓之変”であるとして、あくまで創氏を拒否し、「誓不革姓」と題する絶命詩を遺して、自宅近くの祭閣前の野井戸に身を投じて自殺した。1940 年 5 月 19 日、満 70 歳であった。

柳健永は、1883 年全羅南道谷城郡梧谷面梧枝里の生れ、崔益勉、奇宇萬門下の衛正斥邪派の儒生で、本貫は文化、号は石田と称した。再起反日義兵闘争（1905～06 年）時に全羅道で起兵した崔益勉部隊に参加して活動。その後、故郷に引きこもり、地方儒林として書堂「石田書院」を運営し、後進を指導し抗日思想を鼓吹した。1939 年、新聞報道で朝鮮民事令改正を知り、これを“創氏滅姓、同姓同本婚、異姓養子・婿養子”の三悪であるとみて、朝鮮総督府、經学院、中枢院に抗議書を送るなどして反対運動を展開したが、創氏終了後、ソウルの次男宅で遺書を遺して阿片を服毒して自殺した。1940 年 8 月 27 日、満 57 歳であった。

報告では、生き残った義兵戦争の老兵が「殺身成仁、捨身就義」の行動原理を貫くソンビとしての高潔性をみるとともに、二人の遺書などから抵抗の思想にはなりえても革新の思想にはなりえない衛正斥邪派の思想的限界を指摘した。



お願い 青丘文庫月報は、毎月 1 回（8 月は除く）発行されています。年間購読料は、送料とも 3000 円です。郵便振替＜01150-4-43074 飛田雄一＞でご送金下さい。



第195回 在日朝鮮人運動史研究会 (1997. 6. 15)

占領期在日朝鮮人の参政権要求について

水野 直樹

在日朝鮮人の参政権問題を歴史的に考えるために、「在日朝鮮人・台湾人参政権「停止」条項の成立」(『世界人権問題研究センター研究紀要』第1号、第2号、1996年・1997年)を発表して、敗戦後の日本政府側の政策・見解などを検討したが、本報告ではそれに対応する形で、日本の敗戦からサンフランシスコ講和条約、1955年の朝鮮総連の結成にいたる時期に、在日朝鮮人の側で参政権を要求する運動がどのように展開され、またそれがどのような論理にもとづいていたかを明らかにしたい。

この問題に関しては、朴慶植・梁永厚両氏の概説書でも言及されているが、個別論文としては岡崎勝彦「定住外国人と地方参政権——戦略的人権擁護運動論に即して」(徐龍達先生還暦記念委員会『アジア市民と韓朝鮮人』日本評論社、1993年)が唯一のものである。

参政権を要求する在日本朝鮮人連盟とその傘下団体の主張を検討するために、主に『解放新聞』(朴慶植編『朝鮮問題資料叢書』補巻)を利用する。参政権要求に反対した居留民団、建国促進青年同盟などの主張については改めて取り上げたい。

参政権を要求する理由を整理すると、日本の人民民主革命への参加と在日朝鮮人の生活権擁護の2点にまとめられるが、この2つの論理が混在していたことが当時の運動の実情であった。朝連においては、1946年2月の大阪本部臨時大会、同年10月の全国大会で「選挙権・被選挙権の獲得」が方針として採択され、具体的な運動も取り組まれた。しかし、1947年5月、外国人登録令の施行に対して、当初反対していた朝連が「外国人としての正当な処遇」を前提に登録に協力する方針に転換したことが、朝連の参政権要求にも影響を及ぼしたと見られる。翌年1月に書記局が公表した「在留同胞市民権問題に関する見解」では、「市民権」のうちの生存権は要求すべきだが、日本国籍を持たない外国人である以上、参政権は主張できないとされた。

ところが、48年2月にGHQ民政局代表が記者会見で、朝鮮人も税金を払い法律を守る限り、選挙権が認められるべきである、と発言したことを受けて、3月に朝連は参政権を獲得するために積極的に闘争すべきであるとする書記局見解を出し、再度方針を転換することになった。1948年から50年頃まで参政権(民生委員への選出なども含む)を要求する運動が展開されたが、しかし、朝連内部では「外国人としての処遇」要求と参政権要求との間に矛盾があるのではないかと、という疑問の声も出ていたため、運動としてはそれほど高まらなかった(日本共産党など日本の諸組織が力を注がなかったことも指摘されねばならない)。

結局、1955年まで参政権獲得がスローガンとして掲げられ、現実の選挙運動にも多くの朝鮮人が動員されたにもかかわらず、参政権を求める論理が整理されず、日本政府の政策の矛盾を突くこともできずに終わったと考えられる。

研究会のご案内

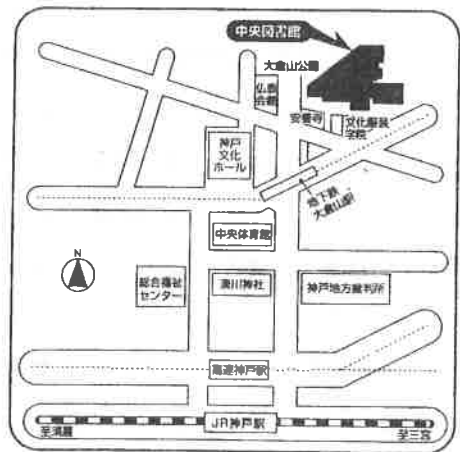
第196回 在日朝鮮人史研究関西部会

1997年7月13日(日) 午後1時30分
報告者 中河 由希夫 氏
テーマ 「大阪府和泉市における在日朝鮮人の形成」

第162回 朝鮮民族運動史研究会

1997年7月13日(日) 午後3時30分
報告者 李 修 京 氏
テーマ 「韓国近・現代における女性文学研究の考察」

会場 神戸市立中央図書館2号館4階 (神戸市中央区楠町7-2-1 Tel 078-371-3351、地図参照)



《今後「研究会」の予定》(研究会は、原則的に第2日曜日です。)

97年9月14日(日) 塚崎昌之(在日) 藤井たけし(民族)

《『月報』巻頭エッセーの予定》(原稿〆切は、前月の25日です)

9月号(金河元) 10月号(佐野道夫) 11月号(金基旺)

12月号(伊地知紀子)

《関連集会案内》

第8回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働 全国交流集会 / 7月26日(土) ~ 27日(日)

松江市社会福祉センター / TEL 0852-22-5111 内線 5477 大谷浩章 078-851-2760 飛田

日韓関係史エスプレントシンポジウム / 8月28日(金) 18:00 ~ 29日(土) 15:00

於 / 神戸学生青年センター / TEL 06-958-2503 (西尾勉)



《編集後記》

前回(6月15日)の研究会は、初めて神戸市立中央図書館で開かれました。青丘文庫のスペースの隣の会議室での快適な研究会でした。まだ新しい青丘文庫をご覧になっておられない方は是非お訪ねください。図書館に行かれたら、まず1号館3階のカウンターで手続きをしてください。よろしく。休館日は、月曜日、時間は午後5時までです。

8月は、研究会、月報ともお休みです。

(編集長 / 飛田 E-mail rokko@po.hyogo-iic.net.jp)